

令和元年度 ミニ・キエーロモニター事業の実施結果

1 事業概要

土の中の微生物の力で生ごみを分解・消失する生ごみ分解処理容器「ミニ・キエーロ」を使用し、その有効性・課題を検証するとともに、家庭から排出される生ごみ減量の取り組みを普及推進するもの。

市内の65世帯で実際にミニ・キエーロを使用してもらい、使用実績についてアンケート調査を実施した。

調査期間: 令和元年7月末～8月 回答数: 53

2 実施結果

(1) 処理状況

ミニ・キエーロでの生ごみ処理について、「うまくいっている」が46件、「うまくいっていない」が6件であり、9割がうまくいっているとの回答であった。

うまくいっていない理由については、「分解しない」が最も多く5件、「手間がかかる」、「その他」がそれぞれ1件であった。

処理状況

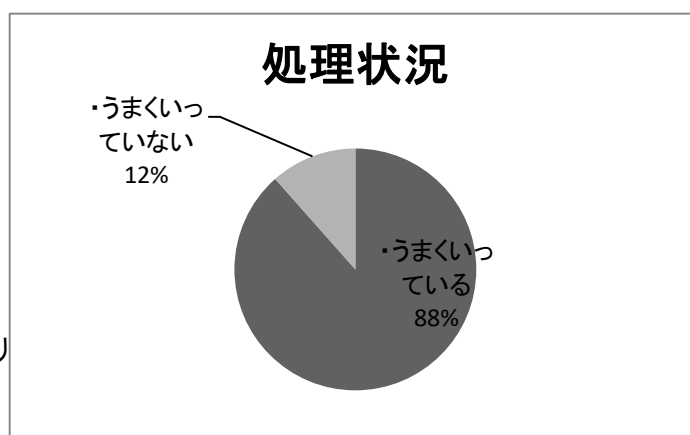
・うまくいっている	46
・うまくいっていない	6

※未回答1

うまくいっていない理由

・分解しない	5
・手間がかかる	1
・臭いが出る	0
・虫がわく	0
・その他	1

※複数回答あり



(2) 投入量・頻度

全モニター世帯の生ごみ投入量は、8月の一か月で合計約100kgであり、1回あたりの平均投入量は約200gであった。投入頻度は「2～3日に1回」が最も多く19件、次いで「4～5日に1回」が12件であり、平均投入頻度は3.4日に1回(月9回程度)であった。

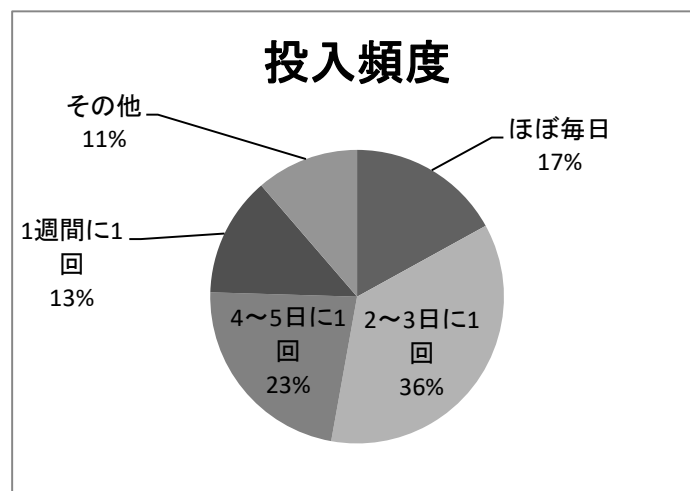
上記から、ミニ・キエーロを活用することで、1世帯あたりひと月約1.8kgの生ごみ削減が見込まれる。

投入量実績(8月)

投入量合計(g)	100,490
平均投入量(g/回)	208

投入頻度

ほぼ毎日	9
2～3日に1回	19
4～5日に1回	12
1週間に1回	7
その他	6



(3) 投入される主な生ごみ

ご飯、麺類、肉の脂身、お茶(麦茶)がら、コーヒーかす、調理油、野菜くず(皮、芯、へた)、果物の皮、魚のあら(頭、骨、皮)、卵の殻 など

※下線を引いたものは分解されにくい又は分解されない

(4) 今後の意向

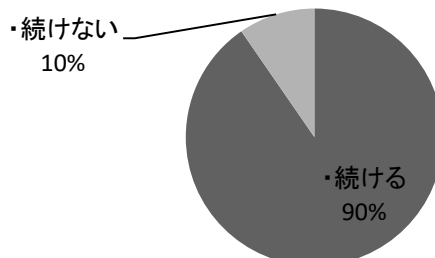
ミニ・キエーロでの生ごみ処理について、「続ける意向である」が47件、「続けない」が5件であり、9割が今後も利用を続けるとの回答であった。また、ミニ・キエーロでは容量が足りないと感じた世帯の中には、容量を拡充したキエーロを自作するとの回答もあった。

今後の意向

・続ける	47
・続けない	5

※未回答 1

今後の意向



【肯定的な意見(うまくいった点)】

- ・処理が簡単で使いやすい
- ・ごみ収集日まで袋に溜めるよりも、においが気にならず良い
- ・揚げ物後の油を投入できるので、廃油処理の手間が省ける
- ・スイカの皮などかさ張るごみを投入できるので、ごみ捨てが楽
- ・マンションのベランダにも置けるサイズで良い
- ・ミニ・キエーロをきっかけにごみの量を意識するようになり、ごみの減量について考えるようになった
- ・少量でもできる範囲で続けられればごみが減らせる

【否定的な意見(問題点)】

- ・分解されないものがある(卵の殻、トウモロコシの芯など)
- ・生ごみの量が多いと中々分解されない
- ・夏でも分解に10日程かかるので、寒い季節は分解されるか心配
- ・投入する生ごみの仕分けに手間がかかる
- ・家庭の生ごみを全て処理するためには、ミニ・キエーロでは容量が足りない